

第3回 フリースクール等こどもの居場所づくり支援検討会 議事録要旨

日時：令和8年8月31日（月）10:00～11:40

（1）資料説明

資料1について説明。前回の検討会では、

- ・ こどもの居場所が生活満足度の向上や孤独感の軽減につながること
- ・ フリースクール等以外にも地域に存在する「緩やかな居場所」の重要性
- ・ 学校、家庭、地域との連携の必要性 などが共有された。

続いて資料2について説明。方向性（案）として、「1 情報発信・連携強化」、「2 世帯への支援」、「3 施設運営支援」、「4 スタッフの質の向上」、「5 コーディネート機能の充実」の5項目を整理した。

（2）意見交換

①フリースクールの公共性と運営支援

- ・ フリースクール等は、不登校児童生徒の増加に伴い、学校のみでは対応できない部分を補完しているが、利用料のみで運営を維持することは難しく、必要な基盤を維持するための支援が必要であるとの意見があった。
- ・ 一方、公的支援には事務負担等も伴うため、企業からの寄附や基金の活用等、地域全体で支える仕組みも検討の余地があるとの意見があり、そのためには、社会全体への情報発信が必要であるとの提言があった。

②こどもの居場所に求められる役割

- ・ 「フリースクール等の拡充」だけでなく、「こどもの居場所そのものを地域に増やす」という視点が重要であるとの意見があった。
- ・ 学校へ行けないこどもが孤立せず、地域や大人との繋がりの中で安心して過ごせる環境づくりが必要であり、福祉的な観点も含めた支援が求められる。また、地域によって居場所へのアクセス状況に差があることから、地域全体でこどもを支える仕組みづくりの必要性が指摘された。

③出席認定及び支援制度について

- ・ フリースクール等こどもの居場所に通所していても出席認定が十分に反映されていない事例があり、現場の実態に即した運用の検討が必要との意見があった。また、学校とフリースクール等を併用するこどもへの対応等、制度上の課題もあり、「出席」の考え方自体について改めて検討が必要との意見があった。

④こどもの命と多様性

- ・こどもの命を守ることが何より重要であり、多様性を包摂する社会の実現が求められるとの意見があった。学校、フリースクール等地域の居場所のいずれであっても、こどもが安心して過ごせることが重要であり、出席日数だけでなく、その子の成長や体験を大切にする視点が必要。

⑤コーディネート機能について

- ・支援につながっていないこどもを把握し、適切な支援へつなぐ仕組みが重要であるとの意見があった。
- ・また、こども食堂、学習支援、居場所、学校、福祉機関等がそれぞれの強みを生かしながら連携できる体制が必要であり、地域レベルでのコーディネート機能やネットワークづくりの重要性が指摘された。

⑥当事者委員からの意見

- ・出席認定の取扱いが学校ごとに異なることに疑問を感じた経験があるとの意見があった。また、制度の議論も重要であるが、こどもが元気で安心して過ごせる居場所を確保することが最も大切との意見があった。

(3) 座長まとめ

本日の議論では、

- ①こどもの命と安心を守り、多様な居場所を地域の中で確保すること
- ②出席認定や利用料補助制度のあり方を見直すこと
- ③学校、福祉、地域及び民間団体をつなぐコーディネート機能の充実が改めて確認された。

次回は、本日の意見を踏まえ、支援の方向性の取りまとめを行う。